

(2)除染モデル事業等の成果報告

資料6

除染モデル事業等の結果の分析・評価 ー除染計画策定/モニタリングー

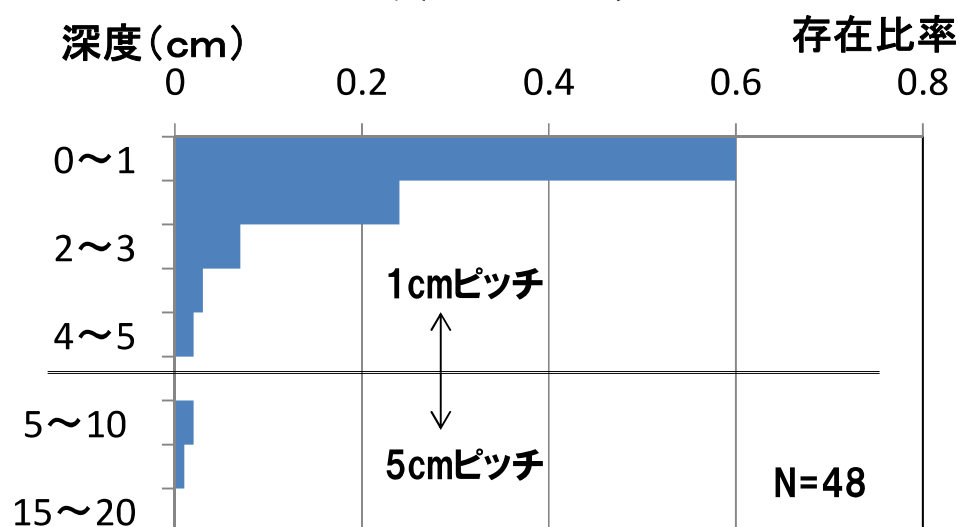
除染モデル実証事業等の成果報告会 平成24年3月26日 福島市公会堂
主催:内閣府原子力被災者生活支援チーム・環境省・日本原子力研究開発機構

技術経験：放射性セシウムの深度方向分布1

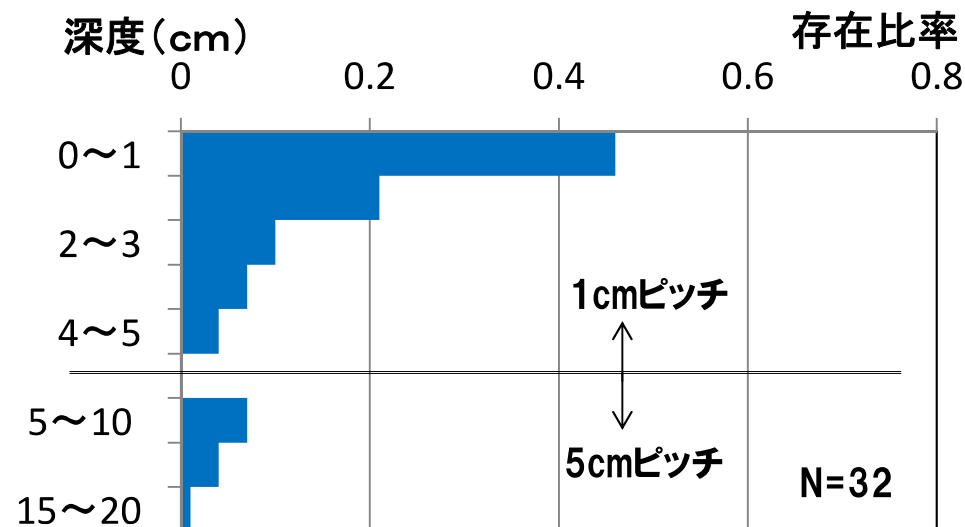
① 土壌における深度分布に関する知見

- 除染モデル実証事業における測定経験では、ほとんどの測定地点において地表面から約5cm程度の範囲に放射性セシウムの80%以上が存在する傾向があった。
- 放射性セシウムの濃度(Bq/kg)と分布は、測定箇所(汚染レベル)、土壌の状態等によって個々に異なっていた。

学校・運動場



農地

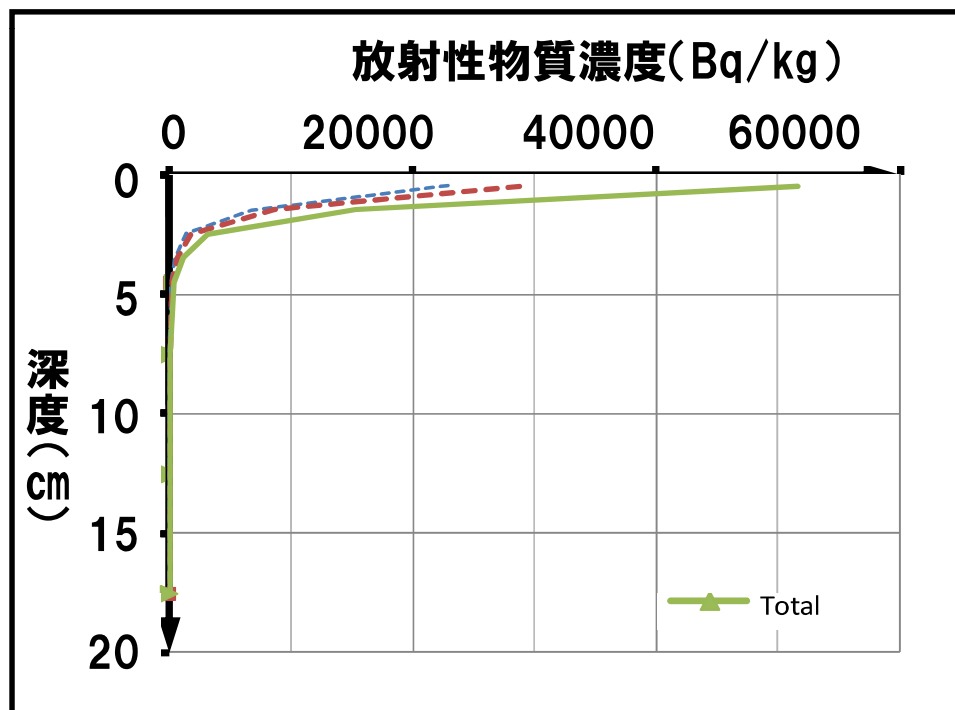


存在比：地表面から20cmの区間の放射能濃度分析値(Bq/kg)を積分した値を1として計算

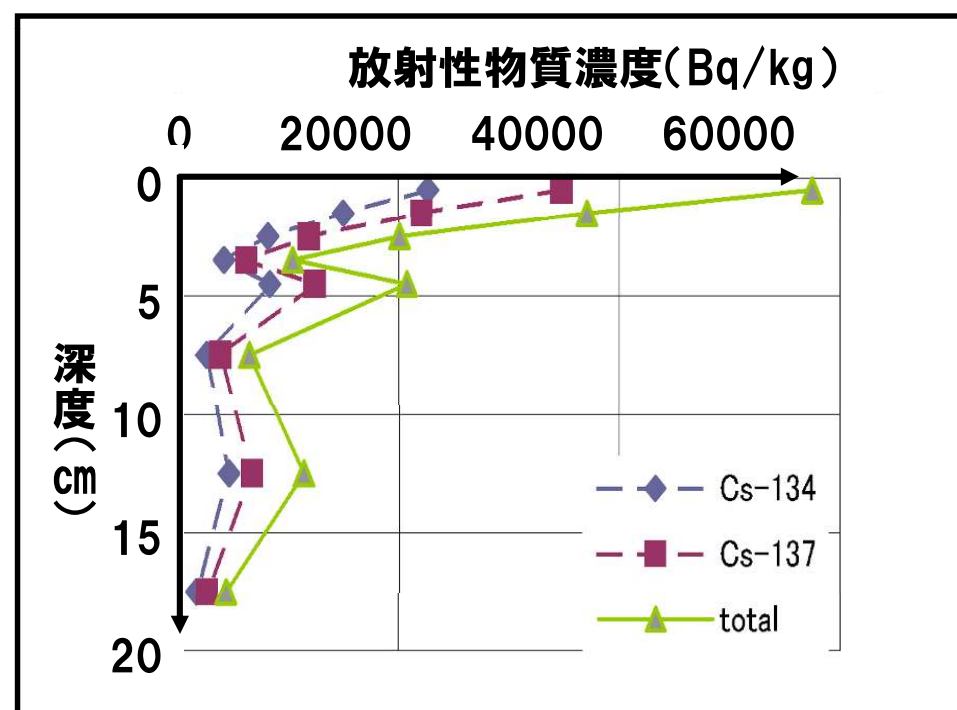
②-1 農地の放射性セシウム付着状況

放射性セシウム付着・残留の傾向の違い

- ◆ 事故直前に、土を耕している田では、耕していない田よりも深くまで放射性セシウムが浸透しており、トラクタの轍等の凹凸により濃度分布がばらついていた。



一般的な田畑の
セシウム濃度分布



事故前(H23/2月頃)に田起こした田畑の
セシウム濃度

※放射能濃度の測定値は、サンプリング手法、測定手法等による誤差が含まれる。

③-3-1 グラウンドの放射性セシウム付着状況

放射性セシウム付着・残留の傾向の違い

- ◆ 公園・グラウンドにおいては、ほとんどの地点(37/40地点)において表面から深度3～5cm程度の範囲に放射性セシウムの90%以上が付着していた。
- ◆ その他3地点においても深度8cmまでに放射性セシウムは90%付着していた。

